無人島で行われる地道な調査

一般の人の立ち入りが禁止されている冠島ですが、専門的な知識を持つ研究者や調査員などが、定期的に島へ渡り、電気や水道もない島で数日にわたって、地道な調査活動を続けています。

オオミズナギドリは夜行性のため、調査は暗闇の中で行われます。一つ一つの巣穴を調べて生息数を数えたり、鳥たちの足に足環（あしわ）を取り付け、旅のルートなどを記録したりします。

▲オオミズナギドリのヒナを測定

地域に根ざした探究

調査には、地元の西舞鶴高校の生徒たちも参加し、専門家の調査をサポートしています。

オオミズナギドリの生態は天然記念物である冠島の森や海の環境が、今どのような状態に保たれているかを映し出しています。高校生たちが地域の自然に目を向け、地道な探究活動を継続していく姿は、舞鶴の貴重な環境を次の世代へ引き継ぐ確かな力となっています。

▲島で活動する西舞鶴高校生

冠島だけでなく、私たちの日常には面白い歴史や不思議がたくさんあります。地域の不思議を調べることは「学び」の一歩です。この夏、皆さんも身の回りにある「なぜ」を見つけて、自分だけの探究活動をはじめましょう。

知りたい秘密はここで発見！

冠島以外にも舞鶴市に歴史や文化がたくさんあります。まずは調べてみよう！

本で調べるなら！「図書館」へ

舞鶴の歴史や自然の本を探してみよう。調べ方に迷ったら、図書館司書に「〇〇について調べたいです」と聞いてみると、おすすめの本を教えてくれます。

本物を見るなら！ 郷土資料館（舞鶴ふるさと発見館）へ

当時使用していた道具や、映像で舞鶴の歴史を学べます。教科書では見られない昔の姿を、自分の目で確かめよう。

この夏、キミも探検隊になろう！

知ってる？ オオミズナギドリのひみつ

この歴史ある島で、毎年春から秋にかけて推定 10 万～20 万羽もの大群で繁殖しているといわれているのが「オオミズナギドリ」。京都府を象徴する「府の鳥（府鳥）」にも指定されている渡り鳥です。

普段は人がいない島の中で、鳥たちはどのように過ごしているのでしょうか。

島でのくらしをのぞいてみよう！

ひみつ1 住まいは土の中

冠島の森に足を踏み入れると、地面にたくさんの穴が見つかります。これは、オオミズナギドリの「巣」の入り口です。多くの鳥は木の上に巣を作りますが、オオミズナギドリは自分の鋭い爪を使って地面に1～2㍍もの深い横穴を掘り、その一番奥で卵を産み、ヒナを育てます。

この地中の巣はタカなどの大型の鳥やヘビから身を守り、夏の強い日差しや雨風をさえぎる役割を持っています。また本土から離れた冠島には、巣を襲う天敵も少なく、豊かな森が育んだ「ふかふかで崩れにくい土壌」が広がり、生活にも子育てにも最適な環境となっています。

ひみつ2 泳ぎが得意！

オオミズナギドリは、足の骨が体の一番後ろ側にあるため、陸の上を素早く歩けません。しかし、海の中では数メートルも深く潜って、上手に魚を捕まえる「泳ぎの名人」です。

ひみつ3 平地から飛ぶのが苦手

歩くことが苦手で、羽は広げると1㍍以上もあり、地面から直接羽ばたいて飛び立つことができません。

そのため、自分の爪を使って木をよじ登り、高い枝や崖の斜面から大空へジャンプし、風の力をうまく捉えて飛び立ちます。